

えびな大也

後援会通信 No.⑧

えびな大也後援会事務所
〒085-0847 釧路市大町1-1-10大町ビル3階
電話:0154-44-4500 FAX:0154-44-4505
E-mail:ebina@marimo.or.jp
発行/えびな大也後援会事務所



道東道白糠インターチェンジ～阿寒インターチェンジ 平成28年3月12日開通!札幌へ約4時間30分 人・モノの流れが変わる

札幌⇄釧路が

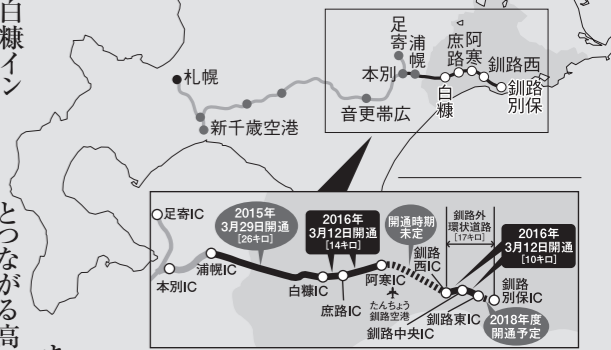
ぐ〜んと

23分短縮! 〈白糠IC開通時〉

39分短縮! 〈阿寒IC開通時〉



3月12日、念願の道東道白糠インターチェンジ～阿寒インターチェンジ間14キロが開通しました。
1995年、十勝管内の十勝清水インターチェンジ～池田インターチェンジが開通したのが始まりで21年間という月日を経て釧路まで延びました。
札幌までの所要時間は夏季で約4時間30分と更に身近になり観光客の増加、物流の効率化が図られ、地域の発展に大きく貢献すると考えられます。



また同日、将来的に道東道とつながる高規格道路「釧路外環状道路」の釧路西インターチェンジ～釧路東インターチェンジ間9.9キロも開通しました。(通行無料)
釧路市と釧路町間も混雑する市街地を通らず円滑に移動できるようになりました。



日本の急速な少子高齢化にむけ、平成26年11月に「まちひととご創生法」が制定されました。
これを受け釧路市では、現状と将来の展望をふまえ、今後5年間の目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「釧路市まち・ひととご創生総合戦略」を策定し、まちづくりを進めています。
私が市長に就任させていただいた時「都市経営」というのを打ち出し、①財政の健全化、②市役所改革、③政策プランの3つをかけた、政策プランの中を更に分け、域内循環させる地域経済、人材の育成と雇用、安心して暮らせる都市づくり、東北海道をつなぐ戦略拠点都市として推進して参りました。
子育て支援の体制を確保し、就労支援を積極的に行い、人口減少を食い止める。また、スポーツ合宿の誘致や長期滞在への取り組み、高速道路が開通したことにより物的、人的交流を促進する。
つまり「補完する」。これらをふまえて「対応する」コンパクトなまちづくりを進め都市機能が集まる都市部を広域中核拠点とし、地域交流拠点の鳥取大通、新橋大通、桜ヶ岡と生活拠点の大葉毛、星ヶ浦、昭和、春採、大町の8拠点を都市を集約。そのエリア内に商業施設、病院、金融機関などを設けそれぞれを公共交通で結び、歩いて暮らせる効率的な街を目指します。
市街地をこれ以上広げないことを原則とし、その中の構造を機能集約型に転換させていくという事です。

コンパクト シティーを めざして。

人口減少に立ち向かう
まちづくり「食い止める」
「補完する」「対応する」



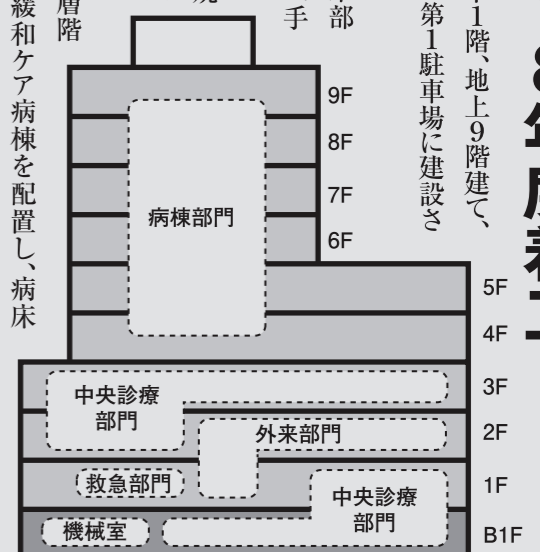
市立釧路総合病院 新棟

2018年度着工

新棟は地下1階、地上9階建て、敷地内にある第1駐車場に建設されます。

低層階に外来部門、救急部門、手術室など、
中層階は分娩部門、周産期病棟、感染症病棟など、高層階は一般病棟や緩和ケア病棟を配置し、病床数は、現在より43床減の506床を予定しています。

また、患者からの相談を受けたり、プライバシーに配慮した説明などが可能な「患者総合支援センター(仮)」も設置されます。
駐車場は、新棟工事期間中の現在とほぼ同じように駐車スペースを確保し、2018年度着工を予定しています。





2017年完成予想図

北大通3丁目、4丁目
再開発複合ビル構想動き出す



北大通

「観光立国ショーケース」に 釧路市が選ばれました



釧路湿原国立公園

阿寒国立公園



旧くしろデパートが立つ3丁目とバステルビルなどがある4丁目の2区画に複合ビルを建設

☆北大通3丁目・4丁目
再開発複合ビル2016年4月より解体工事開始
人がまばらで、なおかつ買物、観光する場がないと言われていた北大通が今、変ろうとしている。

北大通3丁目に建てる分譲マンション棟は、13階建て、1階を商業施設、2階〜13階に60戸の住宅を配置。

4丁目の有料老人ホーム棟は6階、1階を商業施設。2階を医療モール、3階〜6階を有料老人ホームとします。

2016年6月〜7月の着工、2017年秋の竣工を目指す。し、いよいよ動き出します。

釧路中心部に
明るい光がさし、
人が集い、買物客
であふれる街にな
ること。

中心市街地の活
性化起爆剤になっ
てほしいし、また、
あのにぎわいが戻
ってくることを信
じてほしいです。
シャッター街に希
望の光が見えてき
ます。



再開発始動

観光立国ショーケースは、観光立国を体現する観光地として訪日外国人旅行者（インバウンド）を地方へ誘客するモデルケースを提示することを条件として、昨年11月から12月に各都市から提案を募集していました。

その結果、応募のあった10都市から、いずれも優れた観光資源を持つ、釧路市、金沢市、長崎市の3都市が選定されました。釧路市は、阿寒国立公園や釧路湿原国立公園など雄大な自然環境に恵まれた観光地であり、北海道ならではの海の幸山の幸の美味しい食材が豊富に提供できることなどが評価されました。

国はこの3都市をモデル都市として2020年までに環境整備や海外向けの情報発信などを集中的に支援をしていく方針です。

釧路市も観光産業を地域経済再生の柱と位置づけており、国との協議で地域活性化に結びつけていく施策を展開できるよう進めていきます。さらなるインバウンド市場の拡大が期待されます。



現市立釧路図書館



釧路道銀ビル建設予定地

図書館を道銀ビルに移転
中心街のにぎわい再生へ

市立釧路図書館は、平成23年度に実施した耐震診断で「早急に補強が必要」とされ、改築か移転新築か財源を含め議論となってきましたが、中心市街地の北大通地区に移転することが決まりました。

移転先は、北海道銀行が中核テナントとなる新釧路道銀ビル（北大通10丁目 ベスト電器跡地）の中高層階に入居します。

公立図書館と銀行店舗が同ビルに併設するのは珍しいケースです。図書館が中心市街地になることにより、たくさんの人々が集い、にぎわいにつながることを期待します。

先「観光立国ショーケース」のモデル都市の中で、釧路市だけが国立公園を抱えていることも大きな要素となり、同公園の外国人利用者数を現在の430万人から2020年までに1000万人に増やす考えです。

道東道の開通に伴い、国内外の観光客呼び込むことは、これからの釧路にとつての活性化に大きくつながるものです。

国立公園にインバウンドを呼び込むための環境整備をし、観光振興や地域活性化につなげることを目的とした国立公園満喫プロジェクト。

その有力候補地として阿寒が選ばれ、3月21日丸川環境相が現地を視察しました。

プロジェクトの対象地に選ばれると外国人向けツアーの開発、IT活用による情報収集環境の整備、バイアフリー化、案内標識の多言語の表示化などを国が支援をします。

「国立公園満喫プロジェクト」の候補地として阿寒が…。



視察中の丸川環境相